

2017/5/8-5/14 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2017/5/8(月) エズラ記 7 章 この章で初めてエズラが登場します。彼はアロンの系図に連なる祭司で、律法学者でもありました。また、エズラには、神様の律法を調べ、実行し、教えるという志しがありました。エズラは自分のすることや人間関係を神様が祝福してくださっていることを理解していました。時に人は物事が上手く進んでいるときに神様を忘れてしまうことがあります、エズラは自分の上に神様が御手を置いてくださっていることを知っていました。驚くべきことに、自分を王の王と名乗るアルタシャスタ王も、自分の上に天の神がおられることを認めるようになっていました。神様は自分だけでなく、自分の周りの人にも働いてくださって事を進めてくださいます。今日一日の神様の導きを求めて祈りましょう！	2017/5/9(火) エズラ記 8:1-20 エズラと一緒にバビロンからエルサレムに帰る人達の人数を調べたことが最初に書かれているね。調べる中で祭司とレビ人は、礼拝で重要な役割があるのにレビ人がいないことが分かったんだよ。エズラはすぐにレビ人と奉仕者を探して集めることをして、神様の御手がイスラエル人の上にあったので、必要な働き人が与えられたんだね！！神様にあって正しいことをするなら、神様は必要なもの全てを与えてくれるよ！！今日も私の上に神様の恵の御手があることを感謝しよう！！	2017/5/10(水) エズラ記 8:21-36 エズラは集まってきた者たちに、神の前でへりくだり、道中の無事を神に願ひ求めるため、断食を布告した。そして、神は願ひを聞き入れてくださったので、エルサレムに無事に到着でき、さらには与えられた使命を達成することができたと、エズラは感謝して主を賛美した。この帰還は、神殿のために王や議官やイスラエル人たちがささげた多くの財貨を携えての旅であった。エズラは、主への信仰のゆえに王に護衛兵をつけてもらうことを願わなかった。また、ささげ物を管理するために、エズラは 12 人の祭司長たちを選び、「あなたがたは、主の聖なるものである」と寝ずの番をするように任命した。主は、エルサレムに帰還したいと願ひ出た人々とささげ物の全てを守り 使命を達成できるように助け守ってください。主は、私たちにも恵みを与え 主に依り頼んで 使命を達成できるように助け守ってください。天のお父さん 御名をほめたたえます！今日 主に信頼して祈ります！
2017/5/11(木) エズラ記 9 章 【民の罪とエズラの祈り】 エズラのもとに衝撃的な知らせがもたらされた。それは民が、モーセの律法において、宗教的な純潔を守るために結婚が禁じられている者たちと結婚をしていた。エズラはこの情報を聞き、非常に嘆き、髪の毛もヒゲも引き抜き、着物を引き裂いた。エズラの動揺の激しさもあらわれている。問題は、異教の民との雑婚そのものよりも、雑婚によってまことの信仰が失われる事態が生じたところにある。雑婚については、ルツのような例外もある。実際に問題になるのは、信仰が破綻し、イスラエルの民全体に悪影響を及ぼすものであったのだろう。5 節以降エズラのは気を取り戻し神様の前にひざまずき祈った。過去の罪の告白、神のあわれみと神の命令の確認がなされている。信仰の純潔さを求める祈りである。信仰の純潔さを保つことに、もっと意を注ごう。神の愛と恵みの中に生きること、そして信仰の歩みを成熟させることを切に求めよう！！	2017/5/12(金) エズラ記 10:1-17 イスラエルの民達は罪を犯し、律法に従っていなかった。シェカヌヤが律法に従って外国の妻とその子供を追い出しましょうと言った。エズラは立ち上がってその事を実行させた。この事を聞くととんでもなく辛い出来事だったと思いますが、神様に喜ばれないものを持ってる時にそれを手放すのはとても辛い事が多いです。捨てる時に壁を感じるのサタンの策略です。セルを通して交わりや祈りの中で手放していこう！そして今手放せないものがあるなら捨てるよう祈ろう！神様の愛の中でそれを実行出来るように祈ろう！	2017/5/13(土) エズラ記 10:18-44 エズラ記の最後のところだね。神殿の働きをしていた人たちが順番に区分ごとに名前を呼ばれていった。その当時、偶像礼拝の影響から守るために外国の女性ををめとらないという命令があった。でもそれぞれの家系にはすでにそれを破ってしまっている人たちがいたんだ。その人たちの名前がここには記されている。彼らはこの時、エズラのことに従ってめとっていた奥さんと別れて神様に従うことを選んだ。それは苦しい痛みのある決断だっただろう。私たちも自分の罪に気づいたからこそ、苦しみにぶつかる時がある。第 2 コリント 7:10 神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。 今きみが認める必要があること、変わるべきことは何かな？ 思わされたことがあったらそれを祈ろう！	2017/5/14(日) エステル記 1 章 今日の箇所はエステル記の舞台の背景を語っています。アハシュエロス王は首長や家臣たちのために宴会を開きました。ですが、その宴会の最終日に王が、女性たちのために宴会を開いている王妃ワシュティに姿を見せるように言いましたが、彼女はそれを断りました。そこで酔っていた王は怒り、ワシュティを王妃の地位から外し、他の者に王妃の地位を与えることを決定し、実行しました。また、同時に重大な命令を各民族の家庭に対して出しました。度を越した遊びがどれほどの後悔をもたらす事態を招くものかをこの箇所では示しています。そのようなものから身を避ける万全の備えをしていきましょう。

